

令和4年度 ふるさとのづくり支援事業

市町村名	岩手県紫波町	
事業名	地元産酒造好適米を使った日本酒を国内及び海外展開していくための市場調査とブランディング	
企業等概要	企業等の名称	合名会社吾妻嶺酒造店
	代表者氏名	代表社員 佐藤 元
	所在地	岩手県紫波郡紫波町土舘字内川5番地
	連絡先	019-673-7221
	URL	https://azumamine.com/

令和6年3月現在

【事業者概要】

- ・創業江戸時代初期（1684年）。会社設立が昭和元年。日本酒（純米酒のみ）やリキュール（梅酒等）の製造を行っている。
- ・地元の農家と契約栽培した酒米を使用し、酒質にこだわり、年間の製造は3万本が限度。30年前までは地元での消費がほとんどであったが、現在は県外への出荷が7割を占める。

【事業概要】

◇背景・経緯

- ・地酒「吾妻嶺」について県内だけでなく、県外、国外に事業を展開しようと計画するが、まだまだ知名度が低く、同業他社は関東や関西への販路はすでに確保しており、当蔵の立ち位置を明確にしたいと考えてマーケティングやデザイン意匠の確立を検討することにした。

◇開発概要

- ・ラベルの刷新に注力したところ、あまり日本酒を飲まない20～30代の女性や海外からアプローチが増加した。海外の方は日本語が読めず、筆で描いたようなラベルはどれも一緒に見えるため、記号としてのラベルを作成し、当蔵の日本酒と他社のものと差別化を図った。
- ・ECサイトの充実を図り、海外からのアクセス（言語対応）をできるものとして運用を開始した。県外の日本酒イベントに積極的に参加することで、開発商品の周知活動にも力を入れた。

【成果】

◇地域性・特徴

- ・一般消費者からの直接の問合せや、新規酒販店取引も増加し着実に販路拡大につながっている。
- ・南部杜氏発祥の地で県内最古の酒蔵という強みを活かした認知度向上の取組み策として、日本酒に馴染みのない若者向へのPRにも繋がった。また、海外からのHPへのアクセス数も増加した。



酒造所



刷新されたラベル

◇商品化・販売先

- ・一般消費者向けにはECサイトにて販売している。

【今後の展望】

- ・今後インバウンド需要が本格化することを見据え、現状の製造環境の改善と効率化を目指す。具体的には酒蔵水回り環境の改修による衛生的かつ高品質な酒造りと効率的で品質向上を実現するために、サーマルタンクの増設と既存タンクの改修を令和6年の春から夏にかけて検討している。